

平成20年度新潟県立がんセンター新潟病院後期研修募集要項

(応募資格)

医師免許取得後2年間の初期臨床研修を修了した者、もしくは修了見込みの者。

(研修期間)

3年間

(研修コース)

内科レジデントコース(詳細1)

放射線科レジデントコース(詳細2)

(募集人数)

内科レジデントコース 3名

放射線科レジデントコース 1名

(応募手続き)

1. 応募書類 I. 後期研修申込書
II. 履歴書
III. 医師免許証(写)
IV. 推薦状(現在勤務中の所属機関指導医による。(形式は問わない)
「応募書類ダウンロード」
2. 応募締切り 平成19年10月31日(必着)
3. 申込先 〒951-8566 新潟市中央区川岸町2丁目15番地3
新潟県立がんセンター新潟病院 庶務課
E-mail webmaster@niigata-cc.jp
4. 選考方法 面接および書類審査
5. 面接日 平成19年11月上旬(面接日は応募者に直接通知します)
6. 合否発表 平成19年12月中旬に通知

(待遇)

- 身分 非常勤一般職
- 給与 1年目 557,600円/月
2年目 581,700円/月
3年目 595,400円/月 ※給与については改正の予定あり
賞与なし
- 手当等 通勤手当、住居手当、時間外勤務手当、宿日直手当
- 社会保険 公的医療・年金保険加入(政府管掌健康保険・厚生年金)
労働者災害補償保険法の適用
雇用保険加入
- 健康管理 定期健康診断(年1回)
- 医師賠償責任保険 病院加入+医師個人加入(個人負担)
- 外部の研究活動 学会・研究会等への参加・・・可
学会・研究会等への参加費用支給・・・予算の範囲内で支給

(問い合わせ先) 新潟県立がんセンター新潟病院

臨床研修責任者 横山 晶または庶務課(内線 2309)

TEL:025-266-5111(代) FAX:025-266-5111

E-mail webmaster@niigata-cc.jp

詳細 1

内科レジデントコース

(作成担当：内科 張 高明)

(はじめに)

いまや悪性腫瘍疾患は日本人の死亡原因第一位の極めて重要な common disease のひとつとして位置づけられており、その診断、治療、さらには緩和医療を含めた総合的医療体系の確立は世界的な重要課題である。

悪性腫瘍疾患の種類は極めて多彩かつ症例数は増加しているが、人口の高齢化と共に生活習慣病を合併した症例が決して稀ではなく、従来いわゆる一般内科の基礎および専門知識を兼ね備えた腫瘍内科医の需要は極めて大きい。すなわち、従来臓器縦割りの診療体制では多様化する悪性腫瘍症例に対する十分な対処は不可能であり、各臓器別専門知識に加えて日本臨床腫瘍学会が提言しているような臨床腫瘍内科学の概念の理解と診療への導入が不可欠な時代となっている。

(目的)

卒後初期臨床研修を修了し、内科、特に腫瘍内科の専門医を志す医師が、新潟県立がんセンター新潟病院内科、新潟大学医歯学総合病院および新潟県立病院において後期研修を行うことで、日本内科学会認定内科医・専門医、各分野専門医（日本血液学会、日本呼吸器学会、日本消化器病学会など）および日本臨床腫瘍学会専門医の取得を目指す。さらに臨床腫瘍学に関連した課題で学位を取得し、内科医として主要な疾患に対応できるとともに、内科各分野および腫瘍内科専門医として必要な知識、技能、態度を修得し、将来にわたり専門領域で情報交換と生涯学習できる医師の育成を目指す。

(特徴)

1. 当院には、長年の日本内科学会認定教育病院としての実績があり、本プログラムは内科専門医制度に対応する。
2. 当院は、全国がんセンター協議会加盟病院、地域がん診療拠点病院、日本臨床腫瘍学会認定研修施設であり、本プログラムは、臨床腫瘍学会専門医制度に対応する。
3. 当院の内科各サブスペシャリティは関連学会の認定施設であり、内科各サブスペシャリティの専門医制度に対応する。
4. 当院内科のみならず、新潟大学医歯学総合病院内科および新潟県立病院内科と連携することで、研修プログラムの強化が図られている。

(コース概要)

本プログラムは、3年の後期研修プログラムであり、

1. 臨床腫瘍内科学の基礎となる各分野の腫瘍性疾患の臨床研修を当院の内科 3 分野で実施する（研修期間：18 ヶ月）。
2. 新潟大学医歯学総合病院の内科 4 分野（第一内科、第二内科、第三内科、神経内科）のうち 2-3 分野を選択し、各内科担当分野の疾患についての後期内科研修を実施する（研修期間：12 ヶ月）。
3. 新潟県立病院（中・小規模一般病院）にて一般内科後期研修を実施する（研修期間：6 ヶ月）。

で構成されており、各病院の研修時期の違いによって 3 コースに分かれる（表参照）

卒後	Aコース	Bコース	Cコース
1年目	卒後初期臨床研修(がんセンター、その他の臨床研修病院)		
2年目	卒後初期臨床研修(がんセンター、その他の臨床研修病院)		
3年目	大学病院内科後期研修	選択科目研修(がんセンター)	選択科目研修(がんセンター)
		選択科目研修(がんセンター)	選択科目研修(がんセンター)
4年目	選択科目研修(がんセンター)	大学病院内科後期研修	選択科目研修(がんセンター)
	選択科目研修(がんセンター)		県立病院研修(地域医療)
5年目	選択科目研修(がんセンター)	県立病院研修(地域医療)	大学病院内科後期研修
	県立病院研修(地域医療)	選択科目研修(がんセンター)	
6年目以降	大学病院医員、大学院での基礎研究、県立病院内科スタッフなど		

卒後初期臨床研修修了後1年間の後期研修を行い、内科医として必要な基本的能力を修得し、2年目(卒後4年目)に日本内科学会認定内科医を取得する。その後、後期研修プログラム終了までの間に内科各分野のうちから将来のサブスペシャリティを決定する。大学院に関しては新潟大学大学院医歯学総合研究科各分野のいずれかに入学し、サブスペシャリティに関連した領域での基礎研究または臨床研究を行う。大学院入学中に博士論文をまとめ学会誌に投稿するとともに、大学病院各分野での専門内科および腫瘍内科としての中期研修を行い、専門医としての臨床技能を修得する。後期研修3年間終了後の選択としては、

1. 大学病院各分野の医局に入局し、腫瘍内科および各分野の専門医としての臨床技能の向上に努め(5年終了時点で各分野専門医、臨床腫瘍学会専門医の認定試験受験可能となる)、臨床大学院において臨床研究を実施し、博士号取得を目指す。
2. 大学院基礎分野に所属し、基礎研究に従事する。
3. 当院を含めた県立病院での臨床研修を継続する。この場合も社会人大学院に入学し、臨床研究をまとめて論文化し、博士号取得を目指す。

などが想定される。

(主な学会：各自の希望により適宜入会する)

日本内科学会(必須)、日本血液学会、日本呼吸器学会、日本消化器病学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本輸血学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、アメリカ癌学会(AACR)、アメリカ臨床腫瘍学会(ASCO)、アメリカ血液学会(ASH)など

(取得可能な専門医：本プログラム終了後、2年の研修継続が必要)

認定内科医(必須、本プログラム研修中に取得可能)、認定内科専門医、血液専門医、輸血学会認定医、呼吸器専門医、呼吸器内視鏡専門医、消化器専門医、消化器内視鏡専門医、感染症専門医、など

(研修コースの内容と特徴)

1. 新潟県立がんセンター新潟病院 内科における研修（18ヶ月）

1) 血液・化学療法部門

血液悪性腫瘍に対する化学療法

造血幹細胞移植療法

自己末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植、非血縁者間骨髄移植、
臍帯血移植など、全ての造血幹細胞移植が可能（認定施設）

分子標的療法

固形腫瘍に対する化学療法、造血幹細胞移植療法、分子標的療法

化学療法に伴う有害事象の早期診断と対策

終末期症例に対する緩和ケア治療

2) 呼吸器内科部門

日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、
呼吸器疾患の診断、治療、コンサルトが可能となるよう研修する

胸部画像診断に習熟する

気管支鏡による診断と治療を習得する

人工呼吸器管理技術の習得

肺癌を主とした呼吸器悪性疾患の予防、診断、治療の研修

肺癌の早期発見（肺癌 CT 検診の実際）、切除不能肺癌の化学療法（臨
床試験と新規抗癌剤の治験など）、放射線療法、分子標的療法

化学療法に伴う有害事象の早期診断と対策

終末期症例に対する緩和ケア治療

3) 消化器内科部門

消化管内視鏡検査

消化器癌に対する（放射線）化学療法

動注治療

化学療法に伴う有害事象の早期診断と対策

終末期症例に対する緩和ケア治療

当院の各内科部門は非常に多数の症例の診断、治療を実施しており、臨床経験の必要な症例の受け持ちが可能である。

また、当然のことながら臨床腫瘍学会認定施設であり、種々の悪性腫瘍症例の治療に携われるため、新潟県内で腫瘍内科学を研修する上では最適の研修施設である。

各自の将来の希望専門分野に応じて上記の3部門から1-3部門を選択するが、臨床腫瘍学会認定医の規定にもあるように、なるべく多臓器にわたる悪性腫瘍症例の治療研修を実施する（1部門のみの研修を避けること）。

2. 新潟大学医歯学総合病院・各内科における研修（12ヶ月）

新潟大学には第一内科、第二内科、第三内科、神経内科があり、各臓器別診療を行っている。大学病院での研修は以下の特徴を有する。

- 1) 症例数は限られるが、各分野における特殊な症例、難治症例などの入院が多く、複雑な診療体系を習得するのに適している。

- 2) 少ない症例にも中堅医師、上級指導医などが主治医団として配置され、かつ教授回診・助教授回診などを経験できるため、臨床病院とは異なった考え方、アプローチの仕方を習得できる。
- 3) 医局内・大学内での数多くの検討会や講演会などを経験可能であるため、自分の専門分野以外や基礎研究などに触れることが可能である。

原則として、4 内科のうちから 2 内科を選択し、6 ヶ月ずつ研修する。

3. 県立病院（中小規模）での研修（研修期間：6 ヶ月）

本プログラムは新潟県・病院局発信の後期研修プログラムであり、がんセンターを含む新潟県立 15 病院における共同プログラムの一環としての研修と位置づけられる。

初期研修 2 年においても地域医療として 1.5-2 ヶ月間の地域医療担当病院での研修が実施されているが、本プログラムにおける研修では、一般内科後期研修であり、地域中核県立病院での内科スタッフとしての活躍が期待される。

背景にも記したように悪性腫瘍はもはや **common disease** の代表であり、地域病院においても多数の症例の治療を担当する必要があるが、がんセンター・大学病院で習得した知識を生かし、かつ一般内科としての後期研修も同時に実施可能な環境であるため、内科専門医としての修練を積むには最適の機会である。

（研修カリキュラムについて）

研修カリキュラムについては内科認定医・専門医、各分野認定医・専門医、臨床腫瘍専門医取得のためのカリキュラムを活用し、3 年間の研修中に資格試験受験可能な症例を経験する。

（後期研修プログラム終了後について）

本プログラムは 3 年で終了するため、終了時には初期研修も含め 5 年の研修が終了することとなる。現在の内科学は日進月歩であり、各分野とも目覚ましい進歩を遂げている。各自の将来の専門分野を決定するには色々な分野を経験することが必要であるが、腫瘍内科学を基礎として各自が本当に自分がやりたい専門分野を決定していただきたい。その意味で、研修終了後の進路については種々の **option** があり、各自の実力を遺憾なく発揮できるように **back up** していく方針である。

詳細 2

放射線科レジデントコース

(作成担当：放射線科 関 裕史)

【はじめに】

悪性腫瘍は日本人の死亡原因第一位を占める重要な疾患群であり、その診断と治療は現在の医療のなかで重要な課題となっています。

画像診断は悪性疾患の早期発見や治療方針決定のために不可欠であります。近年、診断機器・検査法は革新的進歩を遂げており、的確な診断法の選択および画像解析のために、専門的知識を習得した放射線科専門医の育成が急務となっています。更に、画像診断学は単に「診断」にとどまらず、IVR (Interventional Radiology) の分野では画像診断支援下に低侵襲な「治療」の実践を可能としており、このような画像診断と治療とが直結した臨床応用の需要も拡大しています。また、放射線治療は、悪性疾患に対する集学的治療に果たす役割は大きく、がん患者の機能温存にも大きく貢献しています。近年は更に定位放射線治療をはじめとして、治療精度・治療成績・臨床適応も格段の進歩を遂げようとしています。

【当院放射線科の特徴】

当院は、全国でも有数の悪性腫瘍患者数を有しており、各科との連携下に画像診断、IVR (Interventional Radiology) 治療、放射線治療を幅広く実践しています。画像診断学分野では、胸部・腹部診断学に経験豊富な専門医をスタッフとしており、各種診断機器を用いて全診療科の画像診断を担当しています。早期癌の発見に対しても「がん予防総合センター」を中核に、小肺癌の診断・早期発見などに精力的に取り組んでいます。血管造影・IVR においては、主に悪性疾患に対する IVR 手技を用いた各種治療を行っており、特に転移性肝癌に対して IVR 手技を用いた肝動注カテーテル (リザーバーシステム) 体内埋め込み術とその管理を積極的に行っています。放射線治療分野では、放射線治療専門医が癌治療に専任しています。当院には平成 17 年 7 月より国内 4 台目となる最新の定位放射線治療専門装置 (ノバリス) が稼働し、脳・肺・肝腫瘍に高精度の放射線治療が可能となり、その需要はますます増加しています。

【目的】

卒後 2 年間の初期臨床研修に引き続き、放射線科医として必要な画像診断、Interventional Radiology、放射線治療について診療できる知識・技量を身につけることを目指します。

【後期臨床研修の概要】

本プログラムは、3 年間の後期臨床研修プログラムです。

1. 後期臨床研修 1 年目は、当院放射線科において研修を実施します。放射線医学の基礎となる画像診断学全般について研修します。
2. 後期臨床研修 2 年目は、当院放射線科において研修を実施します。専攻希望に応じて放射線診断学コース、放射線腫瘍学コースを用意しています。

《放射線診断学コース》 放射線診断医を目指す医師が対象となります

- ① 画像診断： 当院の豊富な悪性疾患症例を中心として、CT・MRI・超音波検査・消化管造影検査など、画像診断の知識と技能を習得する。
- ② 血管造影・Interventional radiology (IVR)： 悪性疾患を主な対象として各種 IVR 治療を研修する。特に転移性肝癌に対して肝動注リザーバー留置術を積極的に行っており、肝動注治療の知識・技能・システム管理などについて研修する。この他、原発性肝癌・腎癌・膀胱癌・子宮癌・肺癌など、幅広い悪性疾患の治療を行っている。
- ③ 核医学診断： 各種核医学検査の診断について研修する。
*本コースでは、放射線治療についても研修を予定しており、放射線治療学の基礎を習得することができる。

《放射線治療学コース》 放射線治療医を目指す医師が対象となる

- ① 外来診療と治療計画作成： 外部照射、定位放射線治療、化療併用放射線治療を行う。当院には定位放射線治療専用装置（ノバリス）が稼働しており、定位放射線治療についても研修することができる。
- ② 病棟診療： 放射線治療入院患者の診療を通じて、放射線治療のみならず広範な癌治療の知識と技能を習得する。また、密封・非密封小線源治療についても研修する。
*本コースでは、放射線治療を行うために必要な診断の知識を身につけるため、画像診断学についての研修も予定している。

3. 後期臨床研修 3 年目は、新潟大学医歯学総合病院放射線科において研修を実施します。大学病院での放射線医学分野の専門医療を研修します。

卒後	放射線診断学コース	放射線腫瘍学コース
1 年目	卒後初期臨床研修	
2 年目	卒後初期臨床研修	
3 年目	画像診断学全般（新潟県立がんセンター）	
4 年目	放射線診断学＋病棟研修(*1) （新潟県立がんセンター）	放射線治療学＋診断研修(*2) （新潟県立がんセンター）
5 年目	新潟大学医歯学総合病院での研修	
6 年目以降	放射線科医局員、その他	

* 1 後期研修 2 年目(卒後 4 年目)の診断学コースでは病棟(放射線治療)研修も行う。

* 2 後期研修 2 年目(卒後 4 年目)の腫瘍学コースでは診断学研修も行う。

【放射線科専門医制度への対応】

当院は日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関であり、放射線科専門医資格の取得に必要な 5 年間の認定施設研修期間に含まれます。放射線科専門医取得のため、後期臨床研修開始時には日本医学放射線学会に入会していただきます。

*取得可能専門医・認定医： 日本医学放射線学会認定放射線科専門医、日本放射線腫瘍学会認定医、日本インターベンショナルラジオロジー学会認定指導医 など

【後期臨床研修プログラム終了後について】

希望により、新潟大学放射線医学教室（新潟大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍放射線医学分野）の構成員となることができます。その際、本後期臨床研修レジデントの研修期間も教室在籍期間に繰り入れられ、初期臨床研修終了後にただちに新潟大学の教室構成員となった医師と同様に処遇されます。

具体的な進路としては、放射線科医局員として新潟大学医歯学総合病院あるいは教室関連施設で勤務、大学院入学（基礎研究または臨床研究）、国内外施設への留学などの進路が想定されます。